

「タイ王国高校生相互交流事業」

1 趣 旨

国際化が進展する中、青少年自らが国際社会の一員であることを自覚し、異なる文化や歴史に立脚する人々と共生していくため、タイの青少年を日本に招き、青少年教育施設を中核に、周辺の高等学校、中学校、文化施設等関係機関と連携し、地域の特性を生かした自然体験、生活・文化体験等の機会を提供する。このことにより、日本に対する理解の増進を図るとともに、招いたタイの青少年との国際交流体験を通じて日本の青少年の国際的視野を醸成する。また、日本の青少年をタイに派遣し、相互交流を行うことにより、タイに対する理解を深め、日本の青少年の国際的視野の醸成を深める。

2 主 催

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家

3 後 援

福岡県教育委員会 筑前町 筑前町教育委員会

4 連携校

福岡県立朝倉高等学校 福岡県立朝倉東高等学校 福岡県立朝倉光陽高等学校
福岡県立浮羽工業高等学校 福岡県立浮羽究真館高等学校

5 期 間

①派遣事業

<派遣事前学習会>

・平成29年6月24日（土）～25日（日）1泊2日

・平成29年7月 8日（土）～ 9日（日）1泊2日

<派遣>

平成29年7月30日（日）～8月6日（日）7泊8日

②招聘事業

<総合実行委員会>

・第1回 平成29年 9月16日（土）

・第2回 平成29年11月 4日（土）

<招聘>

平成29年10月20日（金）～29日（日）9泊10日

6 対 象

①日本（連携校）の高校生15名

②タイで第2外国語として日本語を学習している高校生20名

7 参加者

派遣（日本）高校生14名、招聘（タイ）高校生20名、〔タイ引率者3名〕

日本の各高等学校における実行委員の総計50名

8 日 程

<派遣>

7月30日（日）福岡国際空港より出国、バンコクスワンナプーム国際空港より入国
文化学習（サイアムニラミット）

7月31日（月）歴史学習（バンパイン宮殿、アユタヤ遺跡）

8月 1日（火）企業訪問（ローム・インテクレイテッド・システムズ）

学校訪問（サラウィッタヤスクール）タイ語講座、ホストファミリーとの

- 対面式、ホームステイ 1 泊目
- 8月 2日 (水) 学校訪問 (サラウィッタヤスクール) 歓迎式、授業体験、意見交換等
ホームステイ 2 泊目
- 8月 3日 (木) ホストの生徒と一緒にダムヌン・サドゥアク水上マーケット見学後、
ラチャブリーへ移動、T J Y E C 1 泊目
- 8月 4日 (金) 文化交流 (カレン族の小学校)、文化体験 (ボークルン温泉)、
ホスト生徒とのお別れパーティー、T J Y E C 2 泊目
- 8月 5日 (土) バンコクへ移動、ホスト生徒とお別れ、文化学習 (エメラルド寺院、王宮、ワ
ット・アルン、ワット・ポー) 買い物体験 (免税店)
スワンナプーム国際空港より出国
- 8月 6日 (日) 福岡国際空港より入国、解散

<招聘>

- 10月20日 (金) 福岡国際空港より入国、福岡県教育委員会表敬訪問、
工場見学 (トヨタ自動車九州工場)、歓迎の集い、オリエンテーション
- 10月21日 (土) 日本文化理解 (九州国立博物館で歴史学習、太宰府天満宮にて文化学習、
戒壇院にて座禅体験)
- 10月22日 (日) 日本文化理解 (熊本城、城彩苑で歴史学習)
阿蘇青少年交流の家泊
- 10月23日 (月) 自然体験 (阿蘇火山博物館見学、杵島岳登山)
買い物体験 (イオンモール筑紫野)
- 10月24日 (火) 筑前町表敬訪問、夜須中学校訪問、ホストファミリーとの対面式
ホームステイ 1 泊目
- 10月25日 (水) 学校訪問 (福岡県立高等学校 5 校)
授業体験、意見交換等、ホームステイ 2 泊目
- 10月26日 (木) 学校訪問 (福岡県立高等学校 5 校)、
授業体験、意見交換等、ホームステイ 3 泊目
- 10月27日 (金) 学校訪問 (福岡県立高等学校 5 校)、授業体験、意見交換等、
ホストファミリー高校生との事業評価会準備 (当施設に宿泊)
- 10月28日 (土) ホストファミリー高校生との交流 (ニュースポーツ体験、タイカレー作り)
事業評価会、ホストファミリーとのお別れパーティー
- 10月29日 (日) 福岡国際空港より出国

9 活動の実際

<派遣>



【アユタヤ遺跡】



【企業訪問】



【学校訪問】



【カレン族との交流】



【水上マーケット】



【お別れパーティー】

<招聘>



【福岡県庁表敬訪問】



【トヨタ自動車工場見学】



【座禅体験】



【学校訪問】



【タイカレー作り】



【お別れ夕食パーティー】

10 感想

<派遣(日本)高校生>

- ・ この事業に参加して、実際に見たり、聞いたり、体験したりすることの大切さに気づきました。また、この事業で学んだことを生かして、タイの人々との交流をさらに深めたり日本の高校生にタイのことを伝えたりしていきたいと思えます。
- ・ タイでの1週間すべてが驚きの連続で、とてもいい経験になりました。そして、国を越えて友達を作ることができたので、タイに行って良かったと心から思います。この事業に参加して、自分が忘れかけていたチャレンジ精神を思い起こさせられたり、自分自身の中で新しい発見ができました。また、タイに行ってみんなと再会したいです。そのためにも「日々成長」を目標に何事にも積極的に取り組んでいきたいです。
- ・ タイの研修で学んだことから私が考えたことがあります。私たち日本人は、再度、人間の在り方というもの一人一人が真剣に考えるべきだと思います。私は、将来、教育者として子供たちを育てていきたい。その際、この研修で学んだ「笑顔の大切さ」「価値観を認め合い、理解し合うことの必要性」について、子供たちに意識付けしていきたいです。そのためにも、学生である自分がまず、この二つのことを忘れずに過ごしていこうと思います。この8日間をただの思い出とせず、学んだこと、感じたことを実生活に生かし、この研修に参加した価値を見出していきたいです。
- ・ 本場のタイ料理を食べたり、象に乗ったり、ムエタイや水上マーケットを体験したり、日本では味わえない貴重な体験をすることができました。ホストファミリーやガイドさんの話から、タイの文化やマナーについて学ぶことができました。日本を出てみないと見えないことが多くあることに気づきました。私は、将来、日本と外国との架け橋となって活躍できる仕事に就きたいと思っているので、この経験を生かし、広い視野で進路選択をしようと思います。
- ・ ロームという日系企業訪問では、大洪水からどのように復興したのか、再び大洪水が起きても大きな被害が出ないようにするために、どのような工夫をして新しい工場を建て直したのかなどのお話をいただきました。日本人とタイ人が復旧という大きな目標に向かって協力する姿や、働いている人のことを考えた施設整備をされていることを知り、とてもすばらしいことだと思いました。
- ・ 海外の文化や言語に触れることで刺激を受け、また海外に行きたいと思いました。将来、私は海外に関わることができる仕事をしたいと思っています。タイに行ってその気持ちはさらに強くなりました。今回得た貴重な経験を、今後の学校生活や進路決定に役立てて行きたいと思っています。
- ・ 私はこの研修で体験したことをとおして、一つ決めたことがあります。それは私が先頭に立って何事にも挑戦することです。例えば、係決めの時、みんながやりたがらない係になってみようと思います。そのことが自分のものの見方や考え方を変えるかもしれないからです。

周りには、小さなチャンスがたくさん落ちているように思えてきました。私はそれを全部拾い上げていこうと思います。そして周りの人がその姿を見て、負けないように頑張ろうと思われたい人になりたいと思います。

<招聘（タイ）高校生>

- ・ 日本のイベントに参加したとき、タイと違うところがありました。ゴミが落ちてなく、子供のための優先エリアがあり、びっくりしました。タイでもこのような場所があってほしいです。
- ・ 阿蘇のきれいな自然の中で山登りをしました。火山を見たのも初めてでした。タイでも環境を守ってきれいな国にしたいです。
- ・ トヨタの工場を見学したとき、とてもびっくりしました。そこはロボットの世界みたいでした。日本の技術の高さがわかりました。
- ・ 日本人は私と話すとき、ちょっと恥ずかしそうにしてたけど、英語でいろいろな質問してくれました。日本人は人と壁があるように思いました。タイ人はみんな仲がいいので、タイ人のように日本人の壁をなくしたいです。
- ・ 九州国立博物館に行き、日本の歴史や文化だけでなく、タイのことについても展示がありました。日本人がタイのことを大切にしてくれて本当に幸せな気持ちになりました。これから日本とタイの関係がもっとよくなればいいなと思いました。
- ・ 高校で地理の授業を受けました。先生は優しい方で一生懸命私と話してくれてうれしかったです。教え方もとても楽しくて地理が嫌いな私も好きになりました。タイの教育が日本のようになればタイ人は勉強が好きになると思いました。
- ・ 学校訪問の最後の日、クラスのみなどと分かれると考えると悲しかったです。わがままだけど、タイに帰りたくなかったです。みんなともう少し一緒にいたかったです。最終日の授業は特別に楽しかったです。
- ・ 私たちがタイの文化を発表しているとき、みんな静かに聞いてくれました。学校の授業中もとても静かでした。タイでは勉強しているとき、友達と先生と一緒に話すので大声が聞こえます。タイに帰ったら日本の授業を見習いたいです。
- ・ 日本とタイの違うところがわかりました。タイでは、小学校から英語を勉強しますが、日本では中学校から英語を勉強します。だから日本人は英語があまりできないのかなと思いました。

<日本の実行委員の高校生>

- ・ 日本に来るために沢山勉強してきたタイの生徒の話聞いて、すごく嬉しかったし、感動した。将来の夢や目標のために、できることに精一杯に取り組む姿勢を私も見習おうと思った。
- ・ 今回で三度目の受入でしたが、3回とも違ったタイの高校生と交流して、いろいろな視野で、タイそして日本について考えることができ、自分の将来の選択に活かせる体験をさせてもらいました。たくさんのタイ人とつながりをもてたことにとても感謝しています。
- ・ 慣れた日本の朝倉の地からいざ離れ、一週間タイにいと、不安でいっぱいだった。それと同じく、日本に来たタイ人も、不安だらけだったと思う。同じ状態にあった私たちの中で感じた差は、母国愛と芯の強さだ。タイの文化紹介では、一つの恥も見せず披露してくれたり、初対面であっても笑顔で話しかけてくれたり、これらの力は私には足りない気がしている。
- ・ この事業に参加したことで、自分の価値観が180度変わり、成長できた気がします。これからも、このような事業には積極的に参加していきたいです。
- ・ 専門学校修了後の海外留学を決意しました。だから、相手のことを理解し、尊重するよう留学に向けて今回の体験を生かしたいです。

1 1 成 果

<派遣>

- 派遣事業の事前学習会において、当施設職員の講話により「相互理解の増進・国際視野の醸成」という趣旨をきちんと理解し、タイの日本人教師やタイ人留学生等からいろいろな話を聞いたり、アドバイスを受けてすることで、「グローバル化する国際社会の中で、日本の歴史・文化を知り伝える。また、世界を自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じて、語る。」というはっきりした目的を持つことができた。

- 派遣事業の事前学習会に受け入れ先のサラウィッタヤスクールの日本人教師を招いた。学校の様子や生活の仕方等、詳しく説明をしていただき、派遣高校生への不安を取り除くことができた。また、ホームステイのマッチングに関しても、直接高校生と接することで性格等を把握し、ベストな組み合わせをつくることができた。
- 派遣後の個人レポートには「タイのみんなと言葉にできないくらいの楽しい思い出ができ、友情を感じることができたので、行って良かったと思うし、参加させてもらったことの感謝の気持ちでいっぱいです。」「あつという間に時間は過ぎてしまい、最後空港でのホスト生徒との別れはとても辛かったです、そうなる程まで仲良くなれて良かったです。」との記載があった。派遣でのホームステイはわずか2泊であったが、その後も3日間、タイのホームステイ受入生徒が同行したことでふれ合う機会が増え、生徒間の交流・絆が深まった。派遣事業後もSNS等で連絡を取り合うなど、生徒間の交流が継続している。
- アユタヤ遺跡やバンコク市内の寺院等を見学したり、サイアム・ニラミットで歴史劇を鑑賞したりすることで、日本の高校生がタイ文化を知ることと併せ、日タイ両国の文化紹介・学校紹介をしたり、ダンスや踊りを披露し合ったり等の活動で互いに語り合い、ふれ合いながら、交流して学ぶことの大切さを両国の高校生に実感させることができた。
- 日本の高校生は、交流をとおして、タイにいじめがないことを知り、事業評価会で、「タイと日本の学校の違い」というテーマで日本のいじめ問題について自分たちの考えを発表した。交流をとおして、自分たちの問題に目を向け、深く学ぶことができた。
- タイの高校生と一緒に活動していく中で、日本の高校生は、タイの高校生の快活さや積極性、コミュニケーション能力の高さを感じ、感想では「積極的にコミュニケーションをとるということをタイ生徒から学び、もっと自分から行動しなければと強く思った。」「みんなと過ごしていくうちにタイの人たちともうまくコミュニケーションがとれるようになりました。この研修で培ったコミュニケーション能力が無駄にならないように、これからの学校生活だけでなく、将来、海外で仕事をし、世界に貢献できるような人になりたいと思います。」との感想を持ち、今後の生活や自分の将来に生かしていこうとする意欲を持つことができた。
- タイへ進出している日本企業を訪問し、企業説明や大洪水の時の話を聞くことで、「海外で働く場合の苦労や努力、仕事に対する情熱や愛を知ることができた。この体験から国境を越えて世界で活躍するこのような仕事もあるのだと、自分の進路の選択肢を増やすこともできました。」と将来、海外で活躍したいという目標ができた生徒もいる。
- 事業評価会における派遣生徒の発表内容が例年にないほど充実したものとなった。派遣高校生を当施設に呼び、グループごとに職員が付き一緒に発表内容の検討をおこなった。発表の内容は「格差問題」「習慣やマナー、学校生活の違い」等であった。発表の中で「異国の文化を理解し、自国の文化を守ること」「国を愛する気持ち、違いを認め合うことが大切である」等のまとめの言葉があった。経験したことから一人一人が深い学びをすることができたと考える。

<招聘>

- 総合実行委員会を開催して、交流プログラムについて浮羽・朝倉地区の5高等学校が意見交換をしたりすることで、各高等学校の特徴を生かしたプログラムや実行委員会が企画したプログラムを準備することができた。その結果、タイの高校生の学校訪問への高い満足度を得ることができた。
- 受け入れた高等学校の生徒は、タイの高校生が流暢な日本語を話す姿や、何事にも積極的に、誰に対しても友好的な姿から、自分たちの学習意欲やコミュニケーション能力が不十分であることに気づかされていた。「日本に来るために沢山勉強してきたタイの子の話を聞いて、すごく嬉しかったし、感動した。将来の夢や目標のために、できることに精一杯に取り組む姿勢を私も見習おうと思った。」「タイの高校生と交流して、いろいろな視野でタイそして日本について考えることができ、自分の将来の選択に活かせる体験をさせてもらいました。」と今後の意欲をもつことができていた。
- 当施設の職員が、タイの招聘生徒対象の現地事前キャンプに参加し、事業の趣旨や、日本での生活の仕方について説明したことで、日本の生活様式に合わせた態度でホームステイ期間を過ごすことができ、ホストファミリーには驚かれるとともに大変喜んでいただけた。日本語によるコミュニケーションもスムーズにできて絆も深まり、涙ながらに「ホームステイに申し込んでよかった。」と伝えてこられた保護者の方がいらっしやったり、お別れ夕食パーティーや空港の見送りに多くの人を訪れ、別れを惜しむ姿が見られたりした。当施設独自のホストファミリーアンケートによると、全ての保護者から「ホームステイは有意義だった」

との回答があり、ホームステイに対し高い評価を得ることができた。

- 熊本城や阿蘇を見学したことで、日本の自然の美しさを体験することができた。タイの高校生の感想の中に「タイにも山はあるが、観光地にゴミが落ちてないことにびっくりした。タイに帰って大人に伝えたい。」「熊本地震の後で熊本城の天守閣を見学することはできなかったが、美しい城を見ることができてよかった。」という記載があった。日本の自然の美しさを体験し、自国の環境問題について目を向ける生徒もいた。
- 青少年教育施設を活用して集団で生活することにより、タイの高校生は、あいさつ・礼儀や食事のマナー、入浴方法など、日本の生活習慣や生活上のルール、公共マナーなどを学ぶことができた。また、ホームステイを受け入れた日本の高校生と青少年教育施設に宿泊し、一緒に事業報告会の準備をしたり、ニュースポーツやタイカレー作りなどの活動と一緒に参加したりすることで、日本とタイの両国の高校生が、より一層互いの国を理解し合い、友情を深めることができた。
- 日本の高校生は、タイの高校生と交流することで、相手国の文化や考え方を尊重することや、異文化理解のためには自国の文化を理解することの重要性に気づき、国際社会に対応していこうとする意欲を高めることができた。日本の高校生は、「今回の交流経験を通して、タイ人の思い、考えていることに触れました。また、タイの歴史について教えてもらったことで、タイ以外の国についても興味が広がり、これからの自分の将来の進路選択に生かしていきたいと思います。」「今回の交流で、異文化を学ぶことができました。それぞれの国によって生活の違い、人々の性格、大切にしているものなどを知りました。そして、異なる点を受け入れることが大切だと感じました。この経験を、将来たくさんの国の人と接する際、大切に受け入れ、交流していきたいと思います。」という感想を述べ、今後の進路や将来の夢を真剣に考えていこうとする契機となった。